

進行型肝細胞癌に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ療法後に肝切除術を受けた経験のある
患者さんまたはご家族の方へ
(臨床研究に対するご協力のお願い)

獨協医科大学埼玉医療センター外科では、上記の病気で受診された方の検体や診療情報（カルテ情報）を使用して臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはありません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

Atezolizumab–Bevacizumab 療法後に切除された肝細胞癌における腫瘍免疫微小環境と治療奏功性の関連に関する後方視的研究

【研究の背景と目的】

近年、進行した肝細胞癌に対して、アテゾリズマブ（Atezolizumab）とベバシズマブ（Bevacizumab）を併用した薬物療法が広く行われるようになり、治療の効果が得られた一部の患者さんでは、薬物療法の後に手術で癌を切除することが可能となってきました。しかし、同じ治療を行っても、効果に個人差があることが知られており、どのような患者さんでこの薬物治療がよく効くのかについては、十分に分かっていません。本研究では、手術で切除された組織を使用して、腫瘍周囲の免疫反応を調べることで、治療がよく効いた場合とそうでなかった場合の違いを調べることを目的としています。

【対象となる方】

2020年11月1日から2025年12月31日までの間に、当院において肝細胞癌に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ療法を受けた後、肝切除術を施行された方

【使用する検体・診療情報】

使用する検体や診療情報は以下の通りです。

検体：手術により切除した腫瘍を含む肝臓組織

カルテ情報：年齢、性別、病歴、合併症の有無、採血結果、CT・MRIなどの検査画像など

なお、収集したデータは、研究責任者のもと適切に保管・管理致します。

【研究期間と参加予定人数】

この研究は当院臨床研究倫理審査委員会承認後、病院長許可日（2026年3月10日）から2029年12月31日まで実施され、13名の患者さんが対象となっております。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのち解析を行います。

また、使用した検体やカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。

【データの保管】

この臨床研究によって得られたデータは、鍵やパスワードなどで保護し、第三者へ漏洩することがないように厳重保管され、研究の中止あるいは終了後5年または最終公表3年のいずれか遅い日まで保管されたのち、適切に廃棄されます。

【結果の公表】

この研究の研究成果は第127回 外科学会（2027年4月）などで発表予定ですが、その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 外科 吉富秀幸（主任教授）

【問い合わせ先】

埼玉県越谷市南越谷2-1-50

獨協医科大学埼玉医療センター 外科 担当者：高田武蔵（助教） 内線：1314

電話番号：048-965-1130（医局直通） 月～金 9:00～16:30

以上